

## 平成 25 年度決算特別委員会（平成 25 年 9 月 18 日）こども家庭局

### 1. 子育て日本一のまちについて

（北山議員）

子育ての問題については、様々に議論されているが、尽きることがない。

子どもはもっと生まれる必要があると思う。なぜ子どもがこんなにも少なくなってしまったかと考えた時に、戦後に優生保護法という法律があり、後に母体保護法という法律になったが、子どもを産むか産まないかは両親の判断で任せられることになり、これにより子どもが少なくなったのだと思う。この母体保護法を私はどうにかしないといけないと考えている。また、これだけ子どもが少なくなっても、真剣に取り上げようもしない政治にも大きな問題があると思う。

日本一子育てをしやすいまちをつくるために、市があらゆる角度で考えて取り組んでいただいていることについては、その努力を評価している。

保育所を一日も早く、一か所でも多く整備することだけでなく、教育費や医療費、住宅等の問題もある。

民間の住宅に対して、インナーシティの家賃補助があった。この効果が現れはじめた時に、大震災が起こり、凍結状態になっている。こども家庭局としてこの凍結をやめるよう言い出してほしいと考えるがどうか。

交通局の取り組みとして、夏休みなどに親 1 人につき子ども 2 人までは無料にするといったことを実施しているが、これは評価すべきだと考える。ただ、子どもが 3 人、4 人いる家庭もあるので、2 人が無料であるならば、3 人、4 人も無料にすべきである。その分については、こども家庭局が負担することで、交通局に実施できないか申し出てみてはどうか。

市営住宅の空き家募集についても、多子世帯については優先入居の枠を出すよう都市計画総局に言うべきだと考えるがどうか。

今のまま進んでいけば、日本の将来は間違いなく子どもが少なくなり、働く人が減り、内需が伸びなくなり、そして労働力が乏しくなる。そして、国力が徐々に失われていき、国がダウンしていく。

本日のこども家庭局の審査の中でも、保育所の待機児童、学童保育、児童虐待への対応等といった問題が取り上げられていた。様々に対応すべき課題があるわけだが、こども家庭局としては、少子化対策を含めて、何に重点を置き、子育て支援の充実を図っていくのか、伺います。

（長田こども家庭局長）

子育て日本一のまちの実現ということについて、昨年度もご答弁申し上げたが、もちろん一番になることはいいことだと思うが、一つの分野に特化するのではなく、ライフステ

一ジごとのさまざまな課題に対して、効果的な施策を積み重ねることにより、トータルとして、子育て支援の充実を図ってというスタンスが重要であると考えている。

委員からも少子化対策の話があったが、少子化が急速に進む中で、地方自治体としては限界もあるが、我々としては「子どもを産み育てやすい環境を整えていく」という点に力点を置いた役割が求められているものと考えている。

少子化対策という観点からも、子ども・子育て施策を進めていくにあたり、3つの「基本的な視点」を持っている。まず1つ目は、都市化・核家族化が進む中、安心して子どもを産み育てることが出来るよう、親の不安・悩みや孤立感を解消するための、きめ細やかな親支援を行うことである。2つ目は、女性の社会進出等を背景に、仕事と子育てが両立出来るよう、保育サービスの充実をはじめ、社会全体で子育てを支えるための環境整備である。3つ目は、障害のある子どもやひとり親家庭、社会的な養護が必要な児童、児童虐待の防止など、特別な支援が必要な子どもや家庭へのきめ細かい対応である。

これら3つを「基本的な視点」として、引き続き施策を推進していきたいと考えている。

また、こういった「基本的な視点」を踏まえ、委員からもご指摘があったが、産後ケアや育児困難家庭の支援、3歳児健診後のフォロー事業等といった①「母子保健事業」のさらなる充実、②喫緊の課題である「保育所待機児童解消」、③小学生の放課後の居場所を拡充する「放課後児童育成施策」の充実、④障害児が身近な地域で療育・相談が受けられるための「療育体制の再構築」、⑤「児童虐待防止対策」や、養護が必要な児童に対する「家庭養護の推進」、これらを主に5つの重点的な取り組みとして引き続き実施していきたいと考えている。

こども家庭局2年目になり、先ほど申し上げた「基本的な視点」のもとに、重点的な取り組みを行うことで、子ども・子育てにかかる多様なニーズに応えていく。住宅や交通の話もあったが、関係局とも十分連携しながら、ご提案のあった、他局が所管する事業を含めて、私どもの立場として必要とされる施策をバランスよく着実に積み重ね、子育て支援策トータルとして充実を図っていきたいと考えている。

#### (北山議員)

今局長が答弁された方向で全力で頑張りたい。それぞれの局に対しても、こども家庭局の立場として頑張りたい。